

インダ人材の日本での活躍には言語や文化への習熟が必要との認識の下、日本はインドで「介護」「農業」「建設」の語学・技能検定の実施を開始しており、両国間の協力をさらに強化すべく、今後は宿泊施設など他の分野でも開設される予定です。

昨年は、スキル開発の口印協力など、インドの高い技能を持つ若者を多数送り込むための持続可能なエコシステムの確立にとって画期的な年でした。チャンドラセカール電子工業促進相は、東京のインド大

↑ナビゲーター

日本への期待 世界各地から

80

進出促進推進室の発足を発表しました。日本企業の認識を高めて、日本技能工ネク「日本技能工ネク」で使館で、日本技能工ネク、「日本技能工ネク」として、日本企業の認識を高めねらいです。

インドでは、技能開発・起業促進省が「スキル・インディア」の下、政府・産業界・教育界と協力して持続可能なスキル戦略を開展する」とことで、「雇用に十分たえうる」インドを築くために継続的に努力してきました。現在は、スキルの調和・言語・職業訓

インドから(下)

練の手段を改善するに重点が置かれるだけでなく、同時に雇用可能な人材のより大きなパイプラインを構築する点にも重点を置いています。JRのジグロンに沿って、インド国家技能開発公社（NSDC・National Skill Development Corporation）は愛媛県外国人技能実習生受け入れ協議会と協力して、人技能実習生に多くの機会を提供し、愛媛県で実践経験を積むユニークな機会を提供しているのです。

NSDCの100%子会社であるNSDC International Limited (NZのDCCI) は、技能開発のロードマップにおける民間分野での役割を認識し、一貫した技能移転に関する事業システムを形成するため、日本企業向けにインドの熟練労働者を訓練するための覚書を日本の大手企業と締結しました。インド人材の活用に関する啓発セミナーイベントを実施して、インド人材受け入れを促進します。NSDCは、インドでの日本語力に複数の日本語トレーニングセンターを設立する予定で、働き方が世界的に変化する中で、インドは、若者に世界市場の需要に応える能力を育むために付けてもいひる、世間に最も人気のあるアウトソーシング先としての地位を強化していくことになります。インドがこの地位に到達するために日本は極めて重要な役割を果たすのであります。両国は安全、安心しており、両国は安全、安心かつ品定のある方法で急増する学習を推進するために、インドに複数の日本語トレーニングセンターを設立する予定です。

するには、将来を見据えた効率化と、
効力の創出が不可欠であり、
これは経済的につながった世界への鍵でもあるからです。
この節目の時に、インドや
日本の強力なパートナーシップとスキル開発の取り組みを
再確認し、インドの若者が今後
来る仕事に向けた準備をする機会として、世界経済を活性化できることを、
おもむろと考えます。

人材の高度化が唯一の切符

る若者を最大限に活用するためには、人材の高度化が唯一の切符であることを理解しています。若者がこのチャンスに満ちた世界を最大限に活用